

ST 通信、第 4 弾をお届けします！

2025 年 8 月にスタートした「ST 通信」。今回は、その第 4 弾をお届けします。

第 4 弾では、以下の内容を配信いたします。

- ・ST とはどんな専門職なのかをわかりやすくまとめた「ST パンフレット」
 - ・認知症のある方とのコミュニケーション支援のひとつである「メモリーブックの活用」
- 今回は、ツクイ鹿児島吉野の言語聴覚士・松田よりお届けいたします。

※ 第 3 弾は、以下のリンクからご覧いただけます。

<https://bridge.tsukui.net/content/785/>

ST ってどんな専門職？

～ツクイオリジナル「ST パンフレット」が完成しました～

ST は、話す・聞く・食べる機能に障がいがある方に対して、言語・聴覚・嚥下^{えんげ}などのリハビリテーションや機能訓練を行う専門職です。パンフレットでは、日常生活での具体的な症状を例にあげ、

- ・「最近、お茶でむせることが増えてきた……」
- ・「風邪をひいてないのに声の調子が悪い……」
- ・「脳卒中で倒れてからうまく言葉が出てこない……」

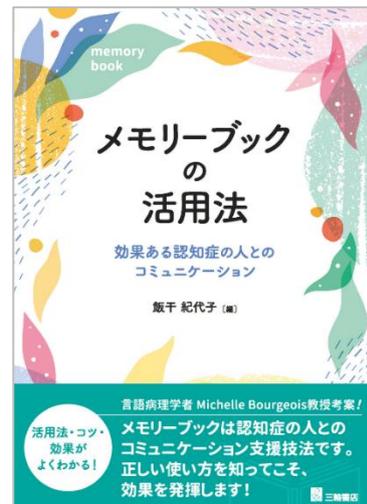
といった困りごとに対して、ST が実施する評価・訓練・サポート内容をわかりやすく掲載しています。

高齢者や障がい者ご本人はもちろん、ご家族、ケアマネジャー、事業所内の他職種の方にも理解していただきやすい内容となっています。すでにケアマネジャーへお渡しした事業所では、「関わってもらいたいケースがいる」と相談されたという声も届いています。ぜひ皆様の現場でもご活用ください！



認知症のある方とのコミュニケーション支援 ～「メモリーブック」の活用をご紹介～

今回は、志學館大学学長で、ST や臨床心理士としてご活躍されている飯干 紀代子（いいばし きよこ）先生が編著した『メモリーブックの活用法ー効果ある認知症の人とのコミュニケーション』（三輪書店）に登場するメモリーブックについてご紹介します。日々の業務の中で、「認知症のある方とどのようにコミュニケーションを取ればいいのか……」と悩む場面は少なくないのではないのでしょうか。



メモリーブックとは？

その方の人生の思い出を尋ね、それを写真やエピソードとともに 1 冊のアルバムにまとめたものです。コミュニケーションを取りながらメモリーブックを作成する過程が、保たれ、奥底に眠っている「思い出」や「ことばの能力」を引き出す手がかりになります。特徴は、ご本人が話した言葉をそのまま本にすること。自分の言葉だからこそ思い出が想起しやすくなります。完成後も、会話のきっかけになったり、音読による言語・認知機能の訓練に使用したり幅広く活用できます。

実践例：3 か月かけたメモリーブック作成

軽度から重度までの認知症者グループに対して、3 か月かけてメモリーブックを作成しました。

- ・「生い立ち」～「未来」までの思い出を尋ねる質問用紙を使用
- ・可能な範囲でご本人に書字していただく
- ・スタッフが読みやすい字・フォントに整え、ご本人に音読していただく
- ・最後に 1 冊の本としてまとめて完成させる。

その結果、MMSE(*1)の得点改善や、「自分からコミュニケーションを取るようになった」「他者との交流が増えた」などの行動面の変化がみられました。

本書では、集団や個人での介入における詳細な実践方法も紹介されています。

ご関心のある方は、ぜひご一読いただき、臨床に活用してみてください。

*1 MMSE・・・認知機能のスクリーニング検査。Mini-Mental State Examination の略称。

<問い合わせ先>

サービス支援部 金谷